京のセントラルパーク、歴史と自然のストック
京都御苑の魅力を発信

京都御苑 NEWS

Kyoto Gyoen
National Garden
News

winter
冬
第148号
2020.12.1
京都御苑ニュース

CONTENTS

▶京都御苑の自然から紬ぐ、日本の〝かな〟の美
▶京都御苑の多彩な生き物たちの世界
▶御苑界隈そぞろ歩き
▶学生コラム ー京都府立鴨沂高等学校ー
▶Information

京都御苑、拾翠亭冬色。九條家の別邸、茶室であった

京都御苑の自然から紬ぐ、日本の〝かな〟の美

予期せぬコロナ禍が世界を席巻した二〇二〇年も終わりを迎え、新たな年が始まる。今までの社会のあり方を見つめ直す中で、自然とともにあった生活文化や美意識に人々の関心が注がれている。京都在住で国内外を舞台に「書」の伝統と可能性を追求する書家、川尾朋子氏が宮廷文化が醸成した「かな文化」と自然の美について語る。

川尾朋子

大学生の頃、講義の合間に散歩したり、友人とベンチに座っておしゃべりしたり……。京都御苑は、いつもそばにある癒しだった。四季折々の植物がいたるところにあり、京都御苑に一歩足を踏み入れるだけで、たくさんの自然とふれあうことができた。その中でも特に脳裏に焼き付いているのは、御苑北側にある近衛邸跡地に咲く桜だ。多様な桜の群生を見た瞬間、驚くほど綺麗で、息をのむ。私は吸い込まれるように桜たちの下にいざなわれる。グラデーションを帯びた花びらがひらひらと緩やかな風に舞い、目の前で表と裏を見せながら散っていく様は、時の流れをもスローモーションにし、まるで自分が物語の中に迷い込んだかのようなワンシーン。

書を学んでいる私が、日本の芸術の中で最も優れているものとしてまず挙げたいのは、和歌の「散らし書き」である。和歌そのものの素晴らしさに加え、染めや箔など美しく装

近衛邸跡の枝垂れ桜

飾が加えられた料紙に、かなを散らして書き、紙面上のコンポジションの妙や、文字と行の間（あわひ）、余白の美を楽しむことができる。

かなの起源は、大陸から渡来した漢字で、その漢字を口語の音にあわせた万葉がなが生まれ、その後、より速く書けるようにと草書をさらにくずした平がなが生まれた。明治時代に統一されるまでは、「あ」だけでも複数の漢字からなる平がながあり、これが今日でいう変体がなのことである。多くの変体がなを駆使して和歌や物語をしたためる、かな文化が隆盛したのが平安時代で、貴族の朝の日課としても文字の手習いがあったという。和歌の繁栄と書の発展の二つが相まって、かなはより進化を遂げ、その美の昇華である「散らし書き」こそが、私たちの根底にある継承されてきた日本の美だと信じている。

二十一世紀連綿シリーズ
「everyday is a new day」

貴族の中で進化していったかな文化は、自然の造形や変化を眺めながら、その美を追求していったのではないかと思う。冬の桜の木を見て、そこに何もなくても、やがて来る春のために木々が今見えないところで活動しているのだと思いめぐらす想像力が、余白を作ったのかもしれない。京都を囲む山々と空の境界線は、散らし書きの書き出しをなぞったようだと感じる時がある。一文字だけのために改行をするのは、一枚の桜の花びらや紅葉の葉が地面に落ちたのを見た時のときめきが心のどこかに宿っているからなのではと、想像してみたりする。

かなを上から下に書く縦のベクトルは漢字と共に渡来したものであるが、散らし書きは垂直ではなく、そのほとんどの行に揺れがあり斜めに傾いていて、それは小川の流れや木の枝のしなりなど自然の造形美を真似ているようにも見える。恋歌が多いとされる和歌を紙面に表現するために、思い通りにならないその心を、人智を超えた自然の造形に委ねるように模倣したのかもしれない。

石清水八幡宮奉納「願」の字を書く筆者
（2017年）撮影：石川奈都子

近年の自身の作品に二十一世紀連綿シリーズというのがある。それは英語をあえて縦書きにし、和歌の散らし書きのように画面にアルファベットを書いたものだ。この作品は、現代の多くの日本人が、戦後の教育やパソコン・スマートフォンの影響で、日本語を横書きにすることを危惧したことから着想した。本来は縦書きに美しく書けるように発展を遂げた日本語を、忘れないでほしいというメッセージを込めている。

すぐ身近に触れることのできる、美しい自然がある日本。その恩恵を受け、培われた日本語の美は、長い年月と数えきれない人の手を経て形作られたかけがえのないものなのだから。

（書家）

作品「京都」京都駅中央口
（2019年）撮影：石川奈都子

京都御苑の多彩な生き物たちの世界―生物多様性―

京都御苑「冬のきのこ」榎（えのき）の切り株に生物の多様性を観る

佐野修治

京都御苑内の「冬のきのこ」の発生種数は十二月が約百四十種、一月は約百種、真冬の二月でも約八十種の記録が残っている。十月は約二百八十種なので秋本番からは半減するものの冬期でも十分きのこの観察が楽しめる。

4種のきのこが同居している榎の切り株

御苑名物の松毬（まつかさ）から発生する三種類のきのこ、マツカサタケ（松毬茸）、マツカサキノコモドキ（松毬茸擬）、ニセマツカサシメジ（偽松毬占地）が同時に観察できる貴重なシーズンです。「きのこ目」になって散策すれば冬のきのこの代表格、天然のエノキタケ（榎茸）にも出会えることでしょう。

動物や植物の遺体や弱った部分を食べて生きる「腐生菌」

初冬、榎の大木の切り株に黄色いきのこが丸い頭を出していた。ヌメリスギタケモドキ（滑杉茸擬）（＊京都御苑初確認）だった。周囲を観察するとアラゲキクラゲ（粗毛木耳）、ヒラタケ（平茸）、それにエノキタケ（榎茸）も数か所で確認した。一本の切り株に四種類のきのこが同時に発生した珍しい記録となった。

この四種のきのこにとって榎の切り株は大きな「お菓子の家」なのだろう。仲良く棲み分けているのだろうか？ それとも食べ物を奪い合って戦っているのだろうか？ 興味が尽きない。さあ、ここで想像してみよう～♪

小さくなって切り株の内部に潜り込んでみると四種のきのこの菌糸がそれぞれのテリトリーで縦横無尽に活動している様子が見える。きのこ以外にも多くの微細な菌類や昆虫たちが生息し

御苑界隈そぞろ歩き

京友禅 ―「着物文化」を次世代へ

矢野泰義

中立売通に面する正面玄関

現在の地に来て友禅染を始めて四十年になります。中立売通は平安京の正親町小路に相当し、『京都坊目誌』には「東は烏丸に起り西は千本に至る。天正以来烏丸以東は皇宮地たるを以て閉塞す。大宮以西は荒廃、のち聚楽第地となり元和年に再開す」とあり、近世前期までは千本通迄だったようです。中立売通の名は天正年間に呉服の立ち売り、つまり店を構えない路上の商売が行われたことに由来し、江戸時代には大名屋敷松平駿河守七万石、画家原在明、内科医宮崎玄素、呉服所藤井長左衛門、清水平四郎などが在り、京の中心として栄えたようです。

この由緒ある地で着物（友禅染）を創作できるということは大変幸せなことです。当然、御所解柄・古典柄を主体に江戸時代の小袖をモチーフにして現代に通じる着物を目指しています。

江戸時代のデザイン画帳である雛形本

技術的には江戸時代のものを研究し、糊糸目を中心に染料は天然染料と現代の化学染料も使い、二十数名の職人さん達と共に日々努力を重ねて居ります。

しかし近年職人さん達の高齢化が進み、次の課題として後継者の育成が必要となり、今後これに取り組み先人から受け継いだ着物文化を大切にして、次世代に伝えていきたいと存じます。

（㈱染の百趣 矢野 相談役）

2年がかりで取組んだ天然染料による友禅染小袖
（波模様には粒子の細かい書道用の墨を使用）

学生コラム

京都御苑への歩み（3）

京都府立鴨沂高等学校
京都文化コース３年 中村愛理

鎌倉時代末期に「御所」と呼ばれた場所の「二条富小路殿（にじょうとみのこうじ）」を本号で紹介します。所在地は二条通の北、富小路通と柳馬場通の間です。

写真の公園の名前は、鎌倉時代の里内裏のひとつであるここが由来になっており、鎌倉時代末期に大覚寺統の後醍醐天皇が政治を行っていたところです。天皇は、鎌倉幕府を倒そうとして失敗し隠岐へ流罪となりますが、幕府滅亡後京都に戻り、ここを拠点にして「建武の新政」を進めます。しかし長くは続かず短期間で権力を失い、1336（建武３）年の戦乱で焼失し、天皇も吉野（大和）に遷（うつ）ったため、政治の中心地としての役割が終わりました。

近くには石碑も建てられています。ですが、実際に「二条富小路殿」があったのは、この公園よりも少し東側と考えられています。

①

②

③

④

①鮮黄色の美しいヌメリスギタケモドキ

②切り株から伸びた根に出たヒラタケ

③滑った傘を広げている天然のエノキタケ

④雨や雪を辛抱強く待つアラゲキクラゲ

ている……。そのような多種多様な生き物（微生物）が榎の体の中で生き生きと暮らしている様子が見える気がする。

苑内の一本の切り株に植物と動物、そして菌類が助け合いせめぎ合いながら多様に生きる様は京都御苑全域のみならず、地球全体の生物多様性の縮図のような気がしている。

きのこは地球を下支えしている大切な生物「還元者」

御苑内に厚く堆積した落葉は春には姿を消しその地に草花が芽生える。落葉を注意深く観察すると小さなきのこが付いていることがある。落葉を食べて暮らしているオチバタケ（落葉茸）類の仲間が植物遺体である落葉の有機物を分解して、結果的に無機物に還している。つまり、命の源「健康な土」を再生していることになる。

我々人を含む動物は、植物や他の動物、菌類など他者の命をいただいて生きている。きのこは全ての生物にとって、また「地球」そのものにとっても無くてはならない大切な生き物なのです。

（京都自然観察学習会／京都御苑きのこ会）

■京都御苑きのこ会

御苑内で毎月一回観察会を開催（顕微鏡観察会は年四回開催）参加費無料。※詳しくは京都御苑きのこ会ホームページで。

京都御苑きのこ会
積雪の「冬の例会」にて

■イベントのお知らせ

※掲載の各種イベントの開催、京都御所などの公開については、新型コロナウィルス感染拡大防止対策のため変更する場合があります。最新の開催、公開情報は各ホームページなどでご確認ください。

京都御所の通年公開

公 開 日：通年(事前申し込み不要／無料)
ただし、下記は休みとなります。
月曜日(祝日の場合は翌日)
年末年始(12月28日～1月4日)
行事等実施のため支障のある日
公開時間：12～2月 /9:00～15:20
(最終退出16:00)
入 場 門：清所門
お問合せ：宮内庁京都事務所　☎075-211-1215

京都仙洞御所の参観

事前申し込みに加えて当日受付も行われています。
当日受付：京都仙洞御所にて11時頃から先着順に整理券を配布。(満員になり次第終了)
当日受付枠は13:30、15:30。
各時間とも定員は10名。
お問合せ：宮内庁京都事務所　☎075-211-1215

京都御苑 自然ふれあいイベント

京都御苑 冬の自然教室
日　　時：令和3年1月開催予定。
内　　容：冬の御苑で見ることのできる生き物を観察します。
＊詳細は決まり次第ホームページなどでお知らせします。

京都迎賓館一般公開

日本の歴史・文化を象徴する京都で、海外からの賓客をお迎えし、日本への理解と友好を深めていただくための国の迎賓施設です。
公 開 日：迎賓館のホームページでご確認ください。
参観料金：大人　1,500円～2,000円
中高生 700円～1,500円
お問合せ：迎賓館京都事務所　☎075-223-2301

苑内の紅梅

■苑内利用施設・サービスのご案内

※掲載の各施設の公開、サービス提供などの運営状況については、新型コロナウィルス感染拡大防止対策のため変更する場合があります。最新の公開、運営情報はホームページなどでご確認ください。

閑院宮邸跡収納展示館／京都御苑総合案内所

京都御苑南西角の旧閑院宮邸跡地に建つ公家屋敷の風格残る旧宮内省建物の遺構。展示室では京都御苑の歴史や自然を紹介しています。また、京都御苑の総合案内所として、マップや苑内の見どころなど旬の情報を提供。
開館時間：9:00～17:00（展示室は16:30まで）
アクセス：間之町口すぐ（御苑南西角　地下鉄丸太町 市バス烏丸丸太町 徒歩5分）
休 館 日：年末年始
※展示室は月曜日閉室

拾翠亭（しゅうすいてい）（茶室）

五摂家の一つであった九條家別邸の遺構で、茶室として江戸時代後期に建てられました。
公 開 日：毎週木・金・土曜日、葵祭、時代祭
9:30～15:30 ※諸事情により参観休止の場合もございます。
参観料　100円（高校生以上）
貸切利用：茶会、句会、謡曲等の会合にご利用できます。利用料については協会ホームページをご覧ください。

休憩所（レストハウス・売店）

休憩やお食事・喫茶にご利用ください。京都御苑オリジナルのお土産物を多数揃えています。
営業時間：9:00～16:30
中立売休憩所（『京都御苑 檜垣茶寮』）
京都御所前に位置し、御苑の木々に囲まれた「森の休憩所」です。中立売駐車場に隣接し、京都御所参観へのアクセスは抜群。セットメニューから軽食、カフェまで木の香る落ち着いた雰囲気の中でお食事ができます。売店『檜垣』では、御苑限定のオリジナル商品を多数取り揃えています。KYOTO-WiFi(無料)も利用可能。

御所の華弁当
右近の橘(刺身付き)
(要予約)

富小路休憩所（御苑南東富小路口すぐ、テニスコート隣接）現在無料休憩所として利用できます。今後新メニューでリニューアルオープン予定。

運動施設

富小路テニスコート（5面）有料
富小路広場（6面）／**今出川広場**（3面）有料
軟式野球・ソフトボールなどにご利用ください。
申し込み：（一財）国民公園協会京都御苑

駐車場

中立売駐車場（乗用車・バス併用／乗用車131台・バス16台）
利用時間：乗用車 7:00～20:00（24時間出庫可）
バ　ス 8:00～17:00
料　　金：乗用車 800円（3時間まで）
当日最大料金 1,200円
バス　2,000円（3時間まで）
※夜間のバス利用について
利用時間：入庫 17:00～20:00　出庫 翌朝8:00まで
料　　金：1泊 3,000円

中立売駐車場

清和院駐車場（乗用車専用／81台）
利用時間：7:00～20:00（24時間出庫可）
料　　金：800円（3時間まで）
当日最大料金 1,200円
＊詳細は協会ホームページをご参照ください。

京都御苑Instagram／Twitterで最新の情報をチェック！
@kyotogyoen_info　@gyoen_info

京都御苑における新型コロナウイルス感染拡大防止対策について

■苑内のご利用に当たり次の予防対策にご理解、ご協力お願いいたします
- マスク着用、咳エチケット　• 手洗い、手指の消毒
- ソーシャルディスタンス（できるだけ2m）の確保
- レジャーシートを使用する際は人との距離を十分に保つ

■中立売・富小路休憩所、閑院宮邸跡収納展示館及び拾翠亭のご利用に当たり次の予防対策にご理解、ご協力お願いいたします
- マスク着用、手指の消毒
- 入場の人数制限
- 席数の制限（中立売休憩所）
- レジの並びでのソーシャルディスタンスの確保（中立売休憩所）

SOCIAL DISTANCE ソーシャル・ディスタンス

会員募集（2021年度）のお知らせ

2021年度（2021年1月～12月）の国民公園協会京都御苑会員を募集します。
■ 年会費
●普通会員……　1,000円以上
●賛助会員（会社・団体）
……10,000円以上
■ 会員特典
1 京都御苑ニュースの送付
2 葵祭及び時代祭の観覧席招待券の進呈(ただし普通会員は会費4,000円以上の方に限ります。)
■ 申し込み・お問合せ先
（一財）国民公園協会京都御苑

編集後記

古来京都の四季移ろう多様な自然は、和歌や書画、着物、茶の湯などの文化やアートを育んできた。先の見えない時代だからこそ、目には見えなくとも大切なものを五感で表現するアートの力が重要になるのかもしれない。（発行人　池田善一）

企画・発行／お問合せ先
一般財団法人 国民公園協会 京都御苑
〒602-0881　京都市上京区京都御苑3
TEL　075-211-6364

編集	監修
白川書院	環境省京都御苑管理事務所

VEGETABLE OIL INK　R70 古紙配合率70%再生紙を使用しています